

【概況説明】

23年度の収支状況等を分析してみると、大学において21年度に開設された看護学科が本年度は3年目となって学生数が増加したことにより、前年度に比して学生納付金収入が増加しました。支出面では大学経営学部設置準備のためのD棟の改築、老朽化した空調設備の更新、高等学校の校舎改修等、施設・設備関係支出の増加が発生しましたが、種々の経費節減努力により諸経費を減少させることができました。その結果、単年度として見ると高等学校部門以外は昨年度に引き続き支出超過の状況ではありますが、超過額は抑制の傾向にあり、今後も学園全体で学生募集を順調に進めるとともに、より一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、大学看護学科の完成年度となる次年度は学生納付金収入もさらに増加するため、収支比率はより好転していく見通しです。

また貸借対照表には負債額が計上されていますが、これは高等学校において例年適用を受けている愛知県私学振興事業財団の授業料軽減貸付金ならびに施設設備整備費貸付金の償還に要する財源として愛知県から全額補填されるものであり、実質的には負債額ゼロのため、負債比率が極めて低く、自己資金率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態であるといえます。